

よりよいこれからの生き方をお考えの方に

ゆかり通信

Vol.114

夏日号

2022年7月15日

この冊子はエデンの園ゆかり会
会員の方に年4回お届けしています。

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 高齢者公益事業部 **エデンの園**「ゆかり会」情報誌

特集

松山エデンの園

人

interview

松山エデンの園 入居者

松山エデンの園 園長

村田昭切さん・村田顯子さんご夫妻 × 橋本美穂

住

エデンの暮らし

松山エデンの園 おさんぽマップ

食

エデンの食卓

松山エデンの園のある日のお食事

園長ごあいさつ

2021年度 事業報告 聖隷福祉事業団 理事長 青木 善治 (P13-14)



松山エデンの園
むら た あき のり
村田昭功さん
むら た あき こ
村田顯子さん
入居者ご夫妻
はし もと み ほ
橋本美穂
園長



真剣に将来を考え辿り着いた、
夫婦二人で不安なく自分らしく暮らせる場所。

コロナ禍が将来を考える契機に
天涯孤独の不安解消を話し合う

「コロナがなければ、民宿を続けていたかもしれません。主人はお遍路さんが好きですから」と顯子さん。新型コロナウイルス感染拡大の影響で客足が減り、宿を一旦閉めることで生まれた時間が、将来のことを真剣に考える機会になった。二人の最大の心配事は身内が少なくないこと。顯子さんは宝塚の姉が他界し、親族は夫のみになっていた。「主人が亡くなったら天涯孤独。このままだと私は孤独死するかも」。そうした不安を二人で話し合うようになり、老人ホームへの入居を検討し始めた。すぐに頭に浮かんだのは「宝塚エデンの園」だったが、昭功さんは四国から離れたくない。松山にもエデンの園があることを知り調べてみると、なんと「松山エデンの園」の前の通りがお遍路道。昭功さんが何度も歩いたことのある場所だった。「ほなら、そこがいい」。決めると早い二人は、2021年7月に初めて園へ電話し、11月には松山での新生活をスタートさせた。

老人ホームのイメージが二変
明るく開かれた雰囲気驚き

顯子さんはお友達から「まだ早いでしょ、そんなところに入るの」と言われたが、二人が驚いたのは「松山エデンの園」の明るい雰囲気だった。「老人ホーム」可哀そう。私も最初はそう思っていました。でも違いました」。昭功さんも「老人ホームといえば、何か閉鎖的な感じで

四国にある空海ゆかりの88の寺院を巡る
「四国八十八箇所」は別名「お遍路」と呼ばれ、
人生修業の場として有名である。

何度も歩き遍路を経験し、
お遍路宿も営んだ村田さんご夫妻が、
終の住処として選んだのは
「松山エデンの園」だった。

お遍路に魅せられ大阪から四国へ
夫婦二人でお遍路宿を切り盛り

2021年11月に「松山エデンの園」に入居した村田さんご夫妻。昭功さんが80歳、顯子さんが67歳の時だった。元々大阪で暮らしていた二人は、何度も四国を訪れ、歩き遍路を重ねていた。「私はお遍路一筋。65歳を超えたら、お遍路で恩返ししよう」と決めていました」と昭功さん。夫婦二人で高知県に移り住み、足摺岬でお遍路さん向けの民宿を始めた。二人のお遍路愛とお人柄から人気宿となり、忙しい日々を送る毎日。お子様がおらず、身内も少ない一人にとっては、国内外から来るお遍路さんとの触れ合いは何よりも大切な時間だった。それでも顯子さんは「民宿を始めた時から、主人が80歳になったらやめよう」と思っていました。体が大変ですから」と将来のことを考えていた。顯子さんが姉の住む宝塚市に通っていたころ、偶然目にしたのが「宝塚エデンの園」のパンフレット。「へえ、こんな所があるんだ」と家に持ち帰ったのが、エデンの園との出会いだった。

すが、開かれた明るい雰囲気は正直びっくりしました」と最初に訪れた時の印象を振り返った。世間一般の老人ホームのイメージは、元気がなくなってきたから入るところという感覚がまだ根強い。顯子さんは「もっと早く知っていたらよかった。入居者の方はみなさん元気で明るくて、やっぱり元気がうちに入居するのが一番ですね」と自分たちの選択に大満足。二人にとって、施設に病院が隣接しているのも、大きな安心材料だった。

週1〜2回、石手寺にお参り
自分たちらしい日常を楽しむ

入居して半年、コロナ禍のため、イベントやサークル活動への参加はまだないが、二人とも松山での生活を満喫している。「毎週1〜2回、二人で道後温泉までバスで行き、(四国八十八箇所)石手寺まで散歩しています。歩くのにちょうどよい距離で、お昼を食べて帰ってくるのが楽しいです」。ベテル病院と共同運営のバスが1日7便、松山市内を巡回し、行きたい所いつでも無料で行ける。市街地での買い物にも便利で、読書が趣味の顯子さんは本屋によく行くという。外食が好きな昭功さんは、近くの喫茶店に通っていたが、最近閉店したため、新規開拓中だ。週末は競馬中継を楽しむ。

今年4月に奈良ニッセイエデンの園から松山に赴任した橋本園長も、お遍路を楽しみにしていた一人。「奈良でも33カ所のお寺を巡り、四国に来たら絶対に行きたかった」と、先日このインタビューに先駆けて、村田ご夫妻と一緒に石手寺を参拝した。「気さくなお一人から色々親切に教えていただき、とても楽しかったです」。



村田ご夫妻と一緒に石手寺を参拝しました。



参拝した日は旧暦の花まつりの日でした。誕生仏に甘茶をかけます。▼



▲花御堂だけでなく境内にはお花が飾られています。



▲これまでのお遍路さんのお話や、民宿での思い出を聞かせていただきました。





松山エデンの園 おさんぽ マップ

松山にはおさんぽに最適なスポットがいっぱい!!
温泉、観光スポット、デパート、商店街、緑豊かな自然など、魅力あるスポットがコンパクトにぎゅっと詰まった松山市は、平地が多く、お散歩にも最適です。



近隣には他にもおすすめスポットがいっぱい



お散歩Aコース
1周約2キロ(青)
(パン屋・コンビニコース)
25分~30分(目安)

お散歩Bコース
松山神社往復(青+緑)
往復約3キロ
60分~70分(目安)

お散歩Cコース
道後温泉往復(青+緑+紫)
往復約5キロ
70~80分(目安)

何よりも、新しい土地で自分たちらしく生き生きと暮らす二人の姿が嬉しかった」と園長。

**温暖な気候、不自由な生活
何でも相談できる職員**

「冬を松山で過ごした村田ご夫妻は、「高知と違い、晴れの日が多くて温かく、湿度が少ないので過ごしやすかった。こたつも使いませんでした」と温暖な瀬戸内海気候にも満足している。「コロナ禍の生活でも不自由することは何もないという二人だが、唯困ったのが、昭功さんの大好きな高知の柑橘「文旦」が手に入らなかつたこと。」「どこを探してもなくて、職員の方に相談したら、すぐに色々と調べてくださり、今は果物屋から取り寄せています」とご満悦。「いつでも何でも相談いただければ、すぐに対応しますよ」という園長の言葉に、笑顔で答える二人。入居者と職員の程よい距離感が、居心地の良さにつながっている。

**流れに任せて自分らしく
いつかはお遍路茶屋を**

先行して動くのは顯子さんだが、最後は「私の信条は、ケセラセラ。人生なるようになりますから」という昭功さんが決断してきた。松山での生活はスタートしたばかり。二人とも、周りとの付き合い方や暮らし方も、自然の流れに任せればいいという。「いい物件があれば、この近くで、お遍路さん向けの御茶屋でもやれたら」と昭功さん。自分らしく、お遍路で恩返しという意志は強いが、決

して無理はしない。あくまで自然体だ。将来の不安を解消した顯子さんも、今はゆったり流れる時間を楽しんでる。人間にある88の煩惱[※]が、88の寺院を巡ること
で消え、願いが叶うと言われる「四国八十八箇所巡り」。これが、歩き遍路を何度も経験した二人が辿り着いた境地なのかもしれない。※煩惱の数には諸説あります。

**入居検討中の方へ
とにかく体が元気なうちに!**

入居検討中の方へのアドバイスを聞くと、「体が元気なうちに、早く入った方がいいですよ」と顯子さん。荷造りから色々な手続き、引っ越しは本当に大変だったという。「思い切って断捨離し、自分たちにとって大切な物、要らない物を整理できたのもよかったです」と、二人にとって大事な宿帳は全て持ってきた。橋本園長は「色々な施設があるので、比較検討して、エデンの園の良さを理解した上で入居してほしい」と、他の施設にはない充実したサービスと職員の温かさを
実際に見てほしいと願う。そして、「自分の思うよう、好きにしたらええ」という昭功さん。最期まで自分らしく生きることを支えたいというエデンの園と、良いご縁があったに違いない。



松山

エデンの園から

お問い合わせ

詳細につきましてはフリーコールにお問い合わせください。
[月～金曜日9:00～17:00 土・日・祝を除く]

フリーコール 0120-459-165

【※介護居室の入居条件】
・要介護認定を受けている方
・その他 詳細はお問い合わせください。

募集対象空室情報
[2022年4月1日現在]



7室入居可能 一般居室
5室入居可能 ※ 介護居室

着任のご挨拶

松山エデンの園の「しあわせづくり」 松山エデンの園 園長 橋本美穂(はしもとみほ)

2022年4月、松山エデンの園の園長に就任しました橋本です。松山エデンの園では、ご入居者が最期まで自分らしく生きることを支えるということ大きな目標としています。具体的には、ご入居者一人ひとりがここで暮らす、そのなげない瞬間に「幸せだな」「エデンに入ってよかったな」と感じていただけるような、生活の支援をしていくことです。自立の方には、自分のペースで自由に生活できるよう、近すぎず、遠くなりすぎないように支え、介護が必要な方には、お元気の時の情報を元に、どうすれば幸せと感じていただけるかを考えたサポートをしていきます。一番大切なのは、ご入居者とのコミュニケーションです。

私たちの根底には、聖隷の理念「隣人愛」が常にあります。お困りの方がいれば、どの課の職員であっても、すぐに手を差し伸べる。ご高齢のご入居者が多いですから、体調の変化、いつもと違う様子にいち早く気づく観察力も重要です。最近はICT化も進み、松山エデンの園の介護居室に見守りシステムが導入されています。システムの活用と職員のハートの部分も大切にしながら、ご入居者が幸せに生きられる生活空間を、職員全員が一丸となって作っていきたくと思います。

オール松山で、ご入居者の「しあわせづくり」を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



食 エデンの食卓 Eden's table

松山エデンの園の
ある日のお食事



【愛媛の郷土料理】

松山鯛めし、じゃこ天・せんざんぎ、石花汁煮(味噌煮)
磯香漬け、にゅうめん(5月24日 夕食)



米飯、カレーの煮付け、れんこんの炒め物、
レタスの酢の物、そうめんの吸い物
(5月25日 昼食)

和食を中心に経験豊富な
6名の調理師が腕をふるう



広々とした食堂。窓から見える新緑も美しい。